

旅順及大連と滿洲同化政策私見

國 井 俊 次

先般、商工經濟研究室調査囑託の任を受けて渡滿以來、日尚淺く充分調査の暇なきも、旅順及大連を瞥見して聊か感ずる所あり。其の印象を綴れるもの即ち本文なり。滿洲に於ける各種生産業につきては尚深く調査すべしと雖も、滿洲同化政策につきて少しく信ずる所を述べて識者の教を乞はんぞす。

一 旅 順

二 大 連

三 滿洲同化政策

一

旅順は關東州の首府たる關東廳と軍司令部とを除けば、商業地としても工業地としても、或は魚村としても鹽業地としても、目下の所特筆すべき材料なく、日本内地にあるとき旅順はかつて露國の海軍根據地なりし關係上、港としても非常に價值あるものと考へ居りしも、豈計らんや港灣淺く、大船の繫留に不便にして、目下僅かに石炭補給の爲め、小數の汽船の入港を見るのみと云ふも過言にあらず。今數字的に之を表はせば、年額輸入拾貳萬兩、輸出貳百萬兩の小額にして、然も此の輸出の貳百萬兩も大部分石炭の供給にして其の他は極めて少量なり。人口約十一萬人、内一萬人は内地人にして

内地人は公務、自由業者及其の家族五割半と商業者一割五分と他は工業其の他に携はり、然も是等實業者は此地方の需要を満たす爲めに必要な實業に従事する者と見る方當を得たらんか。支那人は七割まで農業に従事し、市内全體として商工業地らしき活氣なく、閑靜にて別莊地の觀ありと云ふ批評眞髓を表現し得るか、殊に新市街に於て然りとす。

旅順に期待するは露人の建築に係る兵舎其他の空家にあらず、戰跡の遊覽客を收容するにあらず、目下灣内の遠淺を利用して鹽田の經營食鹽の利用にあり。白玉山上の表忠塔に上り灣内に視線を注ぐ者、皆等しく同感ならん。今や識者の着眼する所となり居るが、一日も早く着手と完成を望む所なり。目下此の旅順には二百六十萬坪の鹽田ありて年額四拾萬圓の收穫を得つゝあるも、尙ほ前途多くの期待を寄するに足る。只地圖を開き、觀測所の統計其他を考慮して案ずるに、水力電氣の發電に有力なる水源地見當らざる爲め、食鹽を原料とする曹達工業を始め、各種の藥品製造に於て一考する必要あるも、奥地に豊富なる石炭を藏する故、是等につき收支計算を計數的に考慮し、具體的に研究するも必要なるべし。

二

大連は旅順を去る急行列車にて一時間の距離にあり。人口二十六萬人、内日本人七萬五千、即ち日

本人四分の一に支那人四分の三の割合にして、今重なる職業別を見るに左の如し。(左表は概數に留めたり)

	商業従事者 及其家族	工業従業者 及其家族	交通従業者 及其家族	農業従業者 及其家族	其 他
支那人	參六、〇〇〇 _A	參七、〇〇〇 _A	貳七、〇〇〇 _A	五〇、〇〇〇 _A	三五、〇〇〇 _A
日本人	壹七、〇〇〇	貳四、〇〇〇	壹四、〇〇〇	壹、〇〇〇	二〇、〇〇〇

右の如き人口と職業との關係を見れば、日本人は商工業に従事するか交通業に携はるもの多きを知る。尤も右表中、其他の多きは官公吏も相當あるを知るべし。

今是等日本人の商工業状態其他に付主觀的觀察より所感を述べん。

金融狀況

内地と同様、否夫れ以上金融狀況圓滑ならず。銀行業者としても二三年前に比すれば餘程整理せられたるは統計の上に明かなれども、尙ほ昭和元年末大連組合銀行の貸出金壹億四千萬圓に對して、預金總額七千萬圓とは銀行業として常態ならざるを見る。即ち預金總額より貸出金額の超過すること七千萬圓なり。斯の如き状態は、銀行當局としても好まざる狀況なれども、好況時代の投じたる陰影にして、今更仕方なし。只如何にして貸出金を取り立つるか問題なるも、此の不景氣なる今日貸付

金の回収は中々困難にして容易に整理すべき問題にあらず。假令擔保物に最も確實性に富む不動産を提供しあるにせよ、(無論貸出金の大部分が不動産融通)今銀行が七千萬圓の貸付金を取り立てんとすれば、是非とも擔保品の處分を行はざるべからず。斯の如き事は財界の變動を來し、到底實行し得べきにあらず。且又事實に於て夢想だも及ばざる事とす。されば銀行は機の到來を待ち、漸時貸出金を緊縮して、少くとも貸し出しと預金とは殆んど同額まで接近せしめんと焦慮しつゝあることゝ信ず。

斯の如き銀行の状態故、銀行は目下借入金をも以てバランスを採らざるべからず。金利は正金等の特殊銀行を除きては、不動産融通にて年一割以上、手形割引にて日歩參錢以上參錢五六厘のものあり、其の上貸出しは餘程警戒裡に行はれ、従つて此の地一部の人士は、政府後援の下に不動産を擔保としての金融機關を設立し、以て現在の難關を切り抜けんと頻りに其の聲を高くしつゝあり。

要は此の地の銀行業は過去の好況時代の放漫金融が、財界の變動により痛手となり、第一次の荒療治たる減資其他の大整理を経て、第二次の整理に入り漸時堅實なる基礎に接近せしめんとして努力しつゝあり。従つて一二銀行を除く外殆んど無配當の有様にして、茲數年を経過せば安全界に入るものと思考せらる。

大連埠頭

多くの倉庫と數條の貨物引込線は埠頭にて完全なる設備に加ふるに、多數の苦力により自由に荷役

出來得るは、内地より來連し埠頭を一望する者皆一樣に其の雄大なるを感ぜざるはなし。此の埠頭に此頃毎日奥地より寄せ來る貨車は、大豆二百五十車と雜穀百車（毎日多少の異動あるも一月中旬頃の狀況）にて、大連埠頭の滞貨五十八萬噸、即ち五千噸級の船百二十隻分とは驚くの外なし。尤も斯く六十萬噸近くの滞貨は一ヶ年通じてにあらず、多くの滞貨を有する時期に就て見れば然るなり。

棧橋の構造亦大に見るべきものあり。乗降客の便と貨物の積み込み積み下しに便なる、日本内地人の想像する意表にあり。毎日平均二萬二千噸、一ヶ年七百八十萬噸の汽船の入港を見、然も單なる寄港にあらず、大部分荷役を了へ出帆するに何等の不便を感せしめず、以て其の設備の如何なる程度か判断の二材料たらんか。滿鐵を滿洲に於ける神経系統と見る時は、大連は其の神経中樞と云ふも過言にあらざるを信ず。今より十年前の一ヶ年三百萬噸入港時代と對比すれば、二倍以上に増加し、然も統計の示す所によれば、毎年入港船舶の噸數の累加しつゝあるを知る。此の勢を以てすれば、一ヶ年一千萬噸の入港を見る亦近きにあり。

商 工 業

奥地の大豆及穀類其他の商工業に就ては今暫く之を避け、其の他の商工業を考ふれば、何れも不景氣の爲めか思はしく感ぜられず、殊に内地人の商工業は衰退の感を深くす、其の中小工業即ち一例を擧ぐれば、大工とか左官とか指物屋とか、小資本の商業即ち豆腐屋とか八百屋とか漬物屋とか肴屋と

かの類は、日を逐ふて華人の爲め其の需要先即ち得意を奪はれ、今日の所殆んど勢力なし遺憾ならずや。之を大にしたる商工業にありても、内地人の商略を了解し、或は大坂方面と直接取引を開始し、或は支那人の生活費用の安價なるを利用して、内地人と競争を行ひ、其の商策實に侮り難きものあり此の勢の趣く所内地人の心膽を寒からしむるものあり。想ふに我國の過去を顧るに、輸出品の主たる生糸は養蠶の人力によらざるべからざる故を以て、工費の高き歐米人は工賃の安き我國に其の供給を仰ぎ、我國に於て斯く隆盛を來したるものならんか、今日生糸は暴落したりと雖も、我國より工賃の安き地にして然も養蠶の適地にて生産を奨励せば如何、非常に有利なる採算を得ん。(南滿の地は養蠶の適地と聞く。)

又、最近英と我國との東洋に於ける綿糸界の競争に於て、英は我が國より工賃高き故、(混綿の手際十分ならざるも理由の一なれども)今や我に敗者たらんとしつゝあり。精巧なる紡績機を我が國に輸出するも、其の製品たるや我に壓せられんとす。此に於て考ふるに我國の生糸と云ひ、綿糸と云ひ、其他如何なる製品も工賃の高低は其の事業の盛衰に關する最大素因なる事を知ると共に、滿洲に於ける内地人と中華人との間に起る現在より將來に於ての商工業の競争たるや、華人は生活程度低く、従つて工賃安く、然も其の商工業に従事して忍耐力強きは、目下の所は之を利用して我が内地人を利すると雖も、近き將來に於ては強敵となり、最後には我が國商工業の前途に暗雲を認めざるを得ず、我

が國民たる者奮勵せざるべけんや。

三

人多く殖民政策なる語を用ふれども、殖民政策なる語は未墾の地に同胞を殖民する場合は兎も角、既墾地に然も他國民の住する地方へは、國際的にも人道上にも弊あらんかと慮ひ（無論殖民政策も同化政策も窮極の目的は同様なるも、方法手段に於て多少相違あり）同化政策に就きて所感を述べんとす。

思ふに同化政策の根本は滿洲に於ける華人を、内地の言語風俗習慣に同化せしめ、内地人の滿洲にありて諸種の事業を達成する爲め、支那人に接し又は之を使用して共に便益多からしめ、其の事業の成功を早め、且又内地人の滿洲に住する者をして異郷にある感あらしめず、悠悠各自の故郷として生活することを得しめ、殖民政策の目的を達するにあり。

人或は云はん滿洲の支那人を日本内地に同化せしめん爲めには、内地人を多數此の地に移住せしめ其の風俗習慣を見習はしめざれば、とても其目的を達する能はず、徒らに同化を叫ぶも内地人の移住を先決問題とせざれば所期の目的を達すること能はず。然り余も亦同感なり、然し又一面より考ふる時は滿洲の地は露國の利權を繼承以來、二十幾年其間内地人は漸次増加し目下滿洲にある同胞は、

約二十五萬、廣き滿洲より見る時は未だ多數と云はざるも亦少しとせず。然るに支那人にして日本の風俗習慣に慣れたる者幾何なるか、一例を擧ぐれば婦人の纏足にせよ、爆竹にせよ、甚だ寒心に堪へず、茲に於て余は同化政策を高調せんとする者なり。

今左に多少議論に渉るも所感を概活的に一言せんとす。十九世紀末のポーランド分割以來、獨の此の地に對する政策を考ふるに、獨乙語を此の地に普及せしむる事及び移民の奨勵に努むるにあつた。而して獨乙人を此の地に移住せしむる爲めには、政府として數回に渉り多大の金貨を惜まず、或は軍事上必要とか、或は何々に必要とかを理由として、ポーランド人より土地を買ひ上げ、此の購入したる土地は獨乙人にして此の地に移住し農業を營む者に安價に拂ひ下げ、農耕に従事せしめたり。又獨乙語の普及は先づ小學校の必須科目として加へたるに始まり、千九百年頃に至り裁判所の使用語より一般官公署の往復文書まで皆獨乙語を用ふる事に定め、以て獨乙語の普及に努めたり。是れ獨乙のポーランド經營は移民の奨勵と、言語の統一とを第一義としたるを想はしむ。然るに勤勉なるポーランド人は一種の農業組合を作り、之を利用して是等獨乙人の耕作地を順次高價に買ひ戻し、獨乙人を逐ひ返し折角政府の苦心も水泡に歸したり。言語の普及はポーランド人の非常なる反對もありしが、順次成功の域に近づきつゝありし折柄歐洲大戰に遭遇したり。

我が帝國の朝鮮經營にも、滿洲政策にも獨乙の此の政策に學ぶもの多し、否世界各國の殖民政策に

は此の方針ならざるなし。今之を滿洲の地に見るに、滿鐵は鐵道を中心として附屬地の華人を教育して、日本内地に接近せしめんとし、關東廳は州内に公學堂を設け、支那人の内地化に努力しつゝあり（公學堂經費は一ヶ年約四十萬圓、兒童數六千人）、誠に結構の事と思す。

又一面には州内の廳有土地は勿論奉天附近の附屬地は内地人の農工商業の爲めに低き賃料にて貸し下げ、内地人の事業遂行上多大の便宜を與へつゝあり。

然るに最近の不景氣と、華人の努力は折角内地人の經營にかゝる建物も、其の土地の使用權も漸時經濟戰の爲め支那人の手に移らんとしつゝあり、否移りつゝあり。此の傾向は甚だ遺憾の至りにて識者の苦慮しつゝある次第なれど、致し方なし。斯の如き趨勢にて推移せんか、我が帝國の租借地たる關東州、否滿州は支那人に依頼を受けて日本人が政治事務を行ふが如き時代を實現せんやも計られず寒心すべき次第なり。殊に最近支那人の思想問題は南方より北進の傾向あり、在滿内地人二十五萬の同胞は協力一致、經濟界に活動して華人をして啞然たらしむるも必要なれど、一日も早く華人を内地化し、思想の動搖を防ぎ、永く日章旗の光輝ある恩恵に浴せしむる事急務ならずや。

内地人は不動産に於て既に斯の如き状態にあり、加ふるに日本語の普及狀況は前述の如く、關東廳も滿鐵も決して忽にせざるも、家庭にありてあまり必要を感ぜざる故、是等の學校卒業生にして日本人經營の會社、官公署に奉職する者の外は、卒業後家庭に於て皆破壊されつゝあり。丁度内地の中等

學校の英語教授の効果を疑はるゝに似たり。彼等支那人曰く日本人が支那語を用ふる故、日本語は知らざるも差支なし、又公會の時は通譯ある故日本語の必要を感せずと。獨乙がポーランドに獨乙語を強ひたるを讚美するにはあらざるも、今一息其筋の努力を望まざるを得ず。又最近日本人小學校に支那語を隨意科目にて置くとか、正科にて置くとか論議されて、遂に隨意科目にて科する様新聞に見えたり。如此は根本的に反對せざるを得ず、日本人として我々の如きは直に眼前の必要に迫られて、已むなく必要なる會話を速成的に研究すれども、現在小學生迄をして支那語を學ばしむるは、言語の統一を如何にする方針なるや疑はざるを得ず。支那人をして日本語を日本人として支那語を學ばしむるは何の目的なるや。

最近日支親善高調せられ、同化政策は反對にて支那に同化せんとするものなるや。日本人にして支那に同化して、商業なり工業に於て利益を得んとするならば、自分等の議論はなきも、米國にて日本人が彼の地に同化して生存するは已むを得ざるも、滿洲の土地にありて支那に同化せんとするは自分等の採らざる所とす。

日本人小學校の支那語教授に就て、滿鐵某有力者の反對意見を新聞紙上にて見るに、其の理由とする所は、日本人教育者にして支那語を教授し得るもの殆んど無き事と、兒童の負擔増加との二大理由の下に反對意見を述べられしも、今少し超越して同化政策上より根本的の反對意見の見えざりしは殘念

なり。

斯の如き狀況にて推移すれば將來何十年を經過するも、言語の統一等望むべき所にあらず。滿洲地方に來住する先輩諸君の今少し大局より見て總ての政策上の覺悟を望む次第なり。要は同化政策上内地人の移住と共に、日本語の普及發達と、内地の風俗習慣を植え付け、我帝國の百年の計を樹つる事急務なるに、前者は經濟的基礎を奪はれんとし、後者は矛盾の感あり、遺憾の極みなり。(了)

獨逸の經濟界

堀 光 龜

何せよ巨億の賠償金と苛重なる租税とを負擔し鐵を失ひ植民地を奪はれ船舶を取られたのでありますから、戦前の様に順調なるを得ないのは申すまでもありませんが、夫れでも近來「レントンマルク」の安定と、企業組織の改善と、獨逸人特有の勤勉性及發明力とに依つて産業、貿易、海運等漸次復興の緒に着きつゝある有様であります。就中企業組織に關しましては戦前夙に獨逸に於ては所謂「カルテル」或は「ツラスト」を以て行はれて居つたのであります。殊に最近二三年間、嘗て「カルテル」「ツラスト」の名義に於てのみならず、「フュージョン」「ゲマインシャフト」「フェルバンド」「フェライニグング」又は「コンチェルン」等の名義を以て縱横各種の聯合、同盟乃至合同が行はるゝ様になり、其事業の範圍も、製鐵鋼、染料及化學工業、電氣、製紙、車輛、製靴、護謨、燐寸、織物及機械の製造事業より電車、海運、水運、運送問屋、海底電信、保險、漁業等の間に至るまで、非常な勢を以て行はれつゝあるのであります。就中鋼鐵、琺瑯、加里等の製造販賣に關しては、國際的聯合の傾向顯著なるものがあるのであります。而して其目的とする所は要するに無益の競争を避け、經費を節約し、生産及販賣の能率を増進し、且つ之を調節せんとするにあるは申す迄もないのであります。(如水會々報第四十一號より)